

2008年度 2 学期 アジア文化概論 II （東南アジア古典文化論） 期末レポート課題

教員：青山 亨

課題配布日：2009 年 1 月 15 日

課題提出日：2009 年 2 月 5 日(木)4 限 授業時間中

レポートの形式：A4 判 3 枚以内。1 ページの上部に「東南アジア古典文化論 2 学期期末課題」と書き、氏名・学籍番号を明記し、左上をホッチキス止めすること。

課題 1

インドの物語は、マハーバーラタやラーマーヤナのようなヒンドゥー教の物語の場合でも、仏伝やジャータカのような仏教の物語の場合でも、輪廻転生（reincarnation）という考え方が背景に存在する。マハーバーラタとラーマーヤナの物語の中で具体的にどの人物について、輪廻転生がどのように語られているかを説明し、次に、その人物が輪廻転生しているという事実によって、物語にどのような宗教的意味が与えられているかを考察しなさい。

課題 2

右の上の図はインドネシアの国章、右の下の図はタイの国章である。いずれもヒンドゥー教の神話に出てくるガルダの姿が描かれている。しかし、インドネシアの人口の 87%がイスラーム教徒、タイの人口の 95%が仏教徒である。このように、現在の東南アジアで、イスラームや仏教が多数派を占める国において、ヒンドゥー教に由来するシンボルが使われている理由を、予備知識のない人（この授業を受けたことのない人）にもわかるように、説明しなさい。

